



モーター製造工程で活躍  
「プランジャーポンプ」

1



- 1 モーター製造工程で活躍「プランジャーポンプ」
- 2 本社工場外観
- 3 新製品「KAPPA5 DUAL SERVO」
- 4 極微量吐出に対応「HPP1」
- 5 新製品「P-FLOW Vタイプ」
- 6 製造部員組立

## 株式会社 ナカリキッドコントロール



代表取締役社長  
仲 昌男 さん



世界に向けた  
付加価値を発信する

私たちはことづくり企業を目指しています。ことづくりとは、ものづくりだけにとどまらず、作った製品をいかに付加価値を高めて世に出していくかという仕組みを作(造・創)ったり、アイデアや工夫を加えたりすることが出来る組織風土をつくっていくことを意味します。毎年会社のブランドスローガンを掲げていますが、今期は「ことづくりで夢づくり」と、中期事業計画では「世界に向けてことづくり」をそれぞれ掲げ、お客様の夢を実現していくこと、職員にも大きな夢を抱いて仕事に取り組んでもらうことを目指しています。

- 主な事業内容  
ディスペンサー（液体定量吐出装置）の製造販売
- 主な取引先（納入先）  
自動車電装部品メーカー

住 所 / 〒570-0003  
大阪府守口市大日町2-18-1  
TEL / 06-6905-1391  
FAX / 06-6905-3322  
創 業 / 昭和45年 5月  
設 立 / 昭和56年10月  
資本金 / 2,000万円  
従業員 / 88名

<http://www.nlc-dis.co.jp/>

# 液体制御技術とノウハウで、 産業界の高精度ニーズに応える

### 事業内容と沿革

## 時代のニーズに応じたディスペンサーを製造販売

昭和45年5月「仲精機」社内にて、液体の定量吐出装置であるディスペンサー開発に着手した。昭和52年2月にイギリスのリキッドコントロール社と技術提携契約を結び、昭和56年10月に分離独立した。

同社が製造販売するディスペンサーは、独自の容積計量方式ポンプを用いた産業用の液体を微量で定量吐出する装置で、プリント基板、コイルなどの樹脂コーティングや炭素繊維の接着などに用いられ、精密電子部品や自動車部品などの分野の生産工程に

幅広く使われる。特に、大手自動車電装部品メーカーへは同社の全体売り上げの約70%を販売している。材料液は接着剤、樹脂、潤滑剤など、粘度や温度などに影響を受けず、主剤と硬化剤の2種類の液体の正確な混合、計量吐出を実現する。

ISO認証の取得後、平成15年7月には中国に現地法人を開設した。以降シンガポールやタイにも現地法人を開設し、平成20年10月には海外営業課も設置。海外展開の積極的な拡大も図っている。

### 強み

## 容積計量で 超精密・高精度の 液体コントロール

主剤と硬化剤を混合することで、高特性を実現する2液型のディスペンサーを強みとする。精密な電子部品を始め、自動車部品や家電製品など、さまざまな分野における生産工程で接着・コーティングなどに活用される。同じ粘度でも流動性や硬化特性が異なる工業液材料は、それぞれ特殊な制御が必要だ。

「ナカリキッドコントロール」のディスペンサーでは微量から多量までの吐出量を簡単に調節でき、自由にコントロールできる。それを支えるのがディスペンサーの心臓部であるポンプ。計量精度の高い容積計量方式を採用し、液体の粘度に影響を受けず、繰り返し吐出精度の高さを維持している。液流路に設けた計量室の容積で供給量を確保し、微量の吐出を実現。温度の変化によって粘度が変わる材料液などでも正確な吐出ができる。

高品質・高精度が求められる自動車関連の電装部品の樹脂封止作業にもマイクロレベルで対応し、オーダーメイドの製品作りも行うなど、時代のニーズや顧客の作業用途に適切に応じている。

### 取り組み

## 技術者育成で オンリーワンの 技術と製品を実現

近年ニーズが高まる耐熱性樹脂は、高粘度・高比重になり正確な計量が難しいが、容積計量方式はシンプルな構造で精度良く吐出可能で、自動車部品メーカーに多く採用されている。ポジロードポンプはその代表格。タンクの下に計量部を取り付けたシンプルな構造で、供給された液材料は直接計量ポンプに送られ、無加圧で正確な計量吐出を行う。こうした精密かつ高精度の液体コントロールを実現する製品づくりには同社の人材育成の成果が現れている。

顧客のニーズに的確に応えるために、取引先認定の資格取得を推奨し、技術や知識の基盤を強化している。例えば、有機溶剤作業主任者は24名、全豊田外来工事作業責任者の認定者は17名、接着剤管理士は2名がすでに取得している。さらに、大手メーカーの早期退職者も採用し、社内体制の改善や技術力の向上に役立っている。仲昌男社長は「外から来た人は新鮮な意見が出やすく、社内の活性化が図れる」と指摘。常に先端技術分野に対応できる人材を育成し、国内外で高い評価と信頼を得ている。

### 今後の展開

## 人材の強みを生かした グローバル展開を

精密少量吐出のニーズの高まりに応じて、高精度の技術力を生かした幅広いディスペンサーをオーダーメイドから標準化する横展開を進め、事業拡大を図っていく。そのうえで、特に樹脂・接着剤メーカーから入社した社員を活用し、技術力を生かした提案型営業を推進。樹脂・接着剤の高性能化・高粘度化の傾向に合わせて、樹脂・接着剤メーカーとの連携強化をもってユーザーの抱える問題を解決し、多様な樹脂や接着剤に応じた製品を提供していく。

平成28年度には品質保証部が発足し、品質向上と管理の徹底を図っている。すでに導入している検査機器の活用や、最新の測定機器の導入を行い、さらなる品質の向上に取り組んでいく。社員の個性を生かした高い技術力と品質管理力で国内外へアピールしていく。仲社長は「今後は経営戦略の確実な実行とスピードを上げ、日本・中国・東南アジアなどグループの海外ネットワーク力を結集し、グローバルクオリティ・グローバルブランドを目指したい」と意気込む。